



本年もよろしくお願いたします。

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。

依然として近隣諸国では口蹄疫や鳥インフルエンザが発生しており、我が国に侵入する可能性が高い状態です。また、昨年末からの菊池地域及び南九州における豚流行性下痢の継続発生についても警戒が必要です。

本年も職員一同緊張感を持って防疫、衛生対策を実施していく所存ですので、関係者皆様方の御協力をお願いいたします。



## 平成28年定期報告について

平成23年の家畜伝染病予防法改正により、家畜飼養者は**2月1日時点**での家畜の飼養状況について県に報告することが義務づけられています。既に様式が届いている頃だと思しますので、関係者の皆様におかれましては、提出に関する御協力をよくお願いします。

また、**小規模飼養者**(※)についても2月1日時点での飼養頭羽数を報告することが義務づけられていますので、こちらも併せてよくお願いします。様式については家畜保健衛生所または各市町村へお尋ね下さい。

※小規模飼養者：以下の条件に該当する家畜飼養者

牛・水牛・馬：1頭飼育まで 豚・いのしし・めん羊・山羊・鹿：各6頭未満

鶏・あひる・うずら・きじ・ほろほろ鳥・七面鳥：各100羽未満 ダチョウ：10羽未満

## 近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	発生地	発生日	畜種	型
高病原性 鳥インフルエンザ	韓国	11月13日～11月15日	あひる	H5N8
		9月14日	がちょう	H5N8
		11月16日～11月24日	地鶏	H5N2
		12月7日	地鶏・鶏	H5N2
	台湾	12月7日	地鶏	H5N8
		12月14・15日	がちょう・地鶏・七面鳥	H5N2
		12月21日	地鶏	H5N2
		12月21日	がちょう	H5N8
		12月24日	鶏	H5N8

# 本県3例目の豚流行性下痢(PED)が発生

平成28年1月7日に菊池地域の1農場において豚流行性下痢(PED)の発生が確認されました。県内では平成27年1月6日の発生以降3例目(※)の発生となります。

関係者の皆様におかれましては、今後の発生状況を注視していただくとともに飼養衛生管理基準の徹底をお願いします。また、PEDが疑われる症状を確認した場合は直ちに当所に御連絡ください。

※農林水産省の方針に基づき、平成27年9月以降の発生数を新規で集計をしています。



## 通報

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。  
 天草家畜保健衛生所 電話番号0969-22-3668

## 農場における消毒の種類と方法について

近隣諸国における鳥インフルエンザや口蹄疫の発生状況から、熊本空港などにおいても渡航者全員の靴底消毒や食肉製品持込みの禁止指導など水際対策が実施されています。しかし、最後の関門として農場における病原体の侵入防止対策は、病気から家畜を守る上でとても重要です。

消毒薬は種類がいくつかあり、それぞれに特徴があります。目的にあった種類の消毒薬を選択し、正しい希釈倍率で使用して病気を予防しましょう。

種類	細菌		真菌	ウイルス ※		コクシジウム	使用対象					金属腐食性
	一般細菌	芽胞菌		エンベロープ有	エンベロープ無		畜舎	器具	踏込槽	畜体	車両	
逆性石鹼	◎		△	○			◎	○	○	◎	○	
塩素系	◎	◎	○	◎	◎		○	○	○	○		強
ヨード系	◎	○	○	○	◎		○	○	○	◎		強
アルデヒド系	◎	◎	◎	◎	◎		◎	○	○		○	
オルソ剤	◎		○	○		○	○	○	○			
消石灰	◎		○	○	○		○		○			

◎：使用に最適      ○：使用に適する      △：一部の薬剤で効果あり

※ ウィルスについて

エンベロープ：一部のウイルス粒子が持つ膜状構造物のこと

エンベロープ有：牛白血病、豚流行性下痢、鳥インフルエンザなど

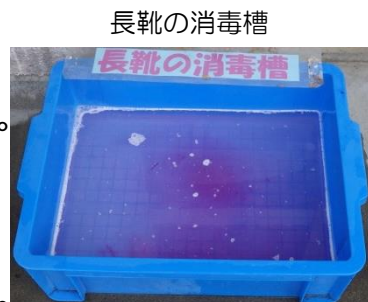
エンベロープ無：口蹄疫、豚サーコウイルス感染症など

# ★消毒のポイント

## (1) 汚れを落としてから消毒

踏込み消毒槽に泥や糞などが入ると、効果が低下します。汚れを落としてから消毒しましょう。その他にも踏込み消毒槽の容器を二つ用意し、一つ目に水、二つ目に消毒薬を入れ、水→消毒薬の順に入ることも効果的です。

また、畜舎なども水洗を十分行ってから消毒しましょう。



長靴の消毒槽

## (2) 定期的な交換

消毒薬は汚れると効果が低下します。こまめに交換しましょう。また、揮発や雨水の混入防止のため、消毒槽の蓋を設置することが有効です。消石灰は雨などで流れたら再度散布しましょう。



消石灰の散布

## (3) 消毒薬の用法・用量を守る

それぞれの消毒薬により希釈濃度が異なります。説明書を確認し、正しい希釈濃度で使用しましょう。

希釈倍率	調整に必要な消毒液の量					
	10L	20L	50L	100L	200L	500L
100倍	100g	200g	500g	1000g	2000g	5000g
200倍	50g	100g	250g	500g	1000g	2500g
300倍	33g	67g	333g	333g	667g	1667g
400倍	25g	50g	250g	250g	500g	1250g
500倍	20g	40g	200g	200g	400g	1000g
1000倍	10g	20g	100g	100g	200g	500g
2000倍	5g	10g	50g	50g	100g	250g

## ！注意点

### (1) 種類の違う消毒薬を混ぜない

アルカリ性消毒薬と酸性消毒薬を混ぜて使用すると効果がなくなります。その他にも作用機序や希釈倍率など異なる場合があるので、種類の違う消毒薬を混ぜて使用しないようにしましょう。

### (2) 休薬期間に注意

消毒薬によっては、畜体に噴霧すると、決められた期間内では出荷できなくなるものがあります。また、畜体に噴霧することを禁止している消毒薬もありますので、使用前に取扱説明書などで確認をしましょう。

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」

